

令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

4月号

通算57号

『牛田古墳群発掘調査報告書』を刊行しました。

令和2年度に発掘調査を行った、「牛田古墳群」の発掘調査報告書が刊行されました。

発掘調査報告書は、開発等によってやむを得ず失われてしまう遺跡を発掘調査によって記録し、遺跡の詳細を報告書として遺したものです。遺跡はなくなってしまいますが、報告書が作られることで、様々な利活用ができるようになります。このような方法は「記録保存」といって、貴重な遺跡などが消えてしまうような場合にやむを得ず使用される方法です。

藤岡市には1,511基（平成28年時点）の古墳があったことがわかっており、特に旧藤岡市域に集中しています。その中で牛田古墳群は小規模な古墳群であるため、これまであまり注目されてきませんでした。

しかし、発掘調査の結果、様々な発見がありました。特に注目されたのは、古墳時代

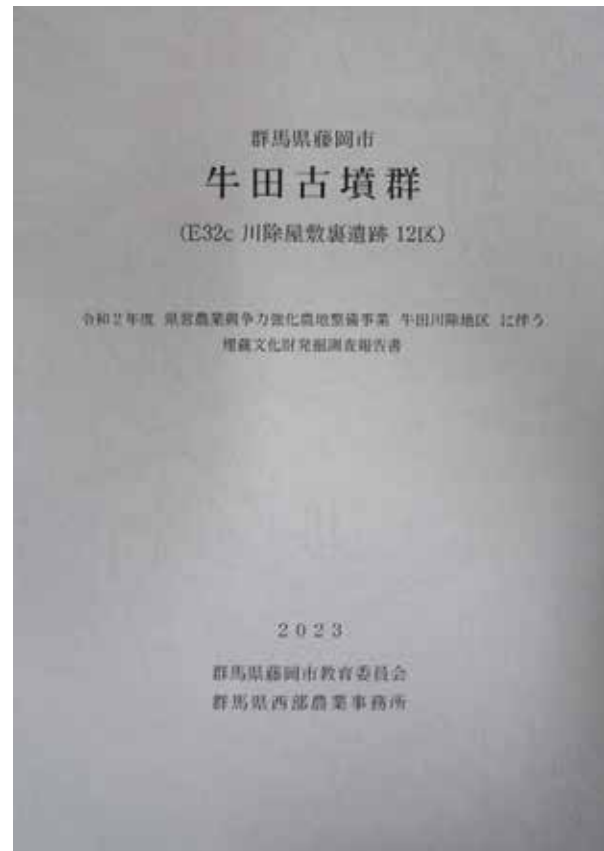


写真1 牛田古墳群発掘調査報告書
(令和5年3月発行)

の藤岡市を特徴づける模様積石室が良好な状態で複数見つかったことです。これまでも模様積石室は発掘されていますが、市内で状態が良くかつまとまって見つかったのは牛田古墳群が初めてです。見つかった模様積石室は、それぞれ特徴が異なり、古墳を作った人々の創意工夫を感じさせます。石室内は盗掘されていましたが、小形の鉄製品（鉄鏃・^{てつぞく}鉄刀など）やガラスや石で作られた美しい玉類が見つかり、埋葬の状況が推測できました。

その他にも古墳から出土した土器や図面・写真が掲載されており、牛田古墳群の内容について知ることができます。

一般頒布^{はんぷ}や販売は行っていないませんが、4月以降に図書館や藤岡歴史館でご覧いただくことができます。お手にとってご覧いただければ幸いです。

令和5年度で本事業は完了となります。あと1年ですが、よろしくお願い致します。

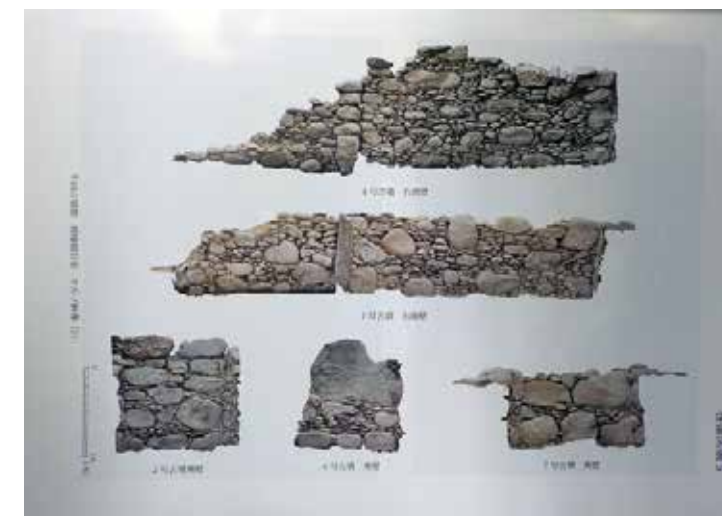


写真2 様々な模様積石室

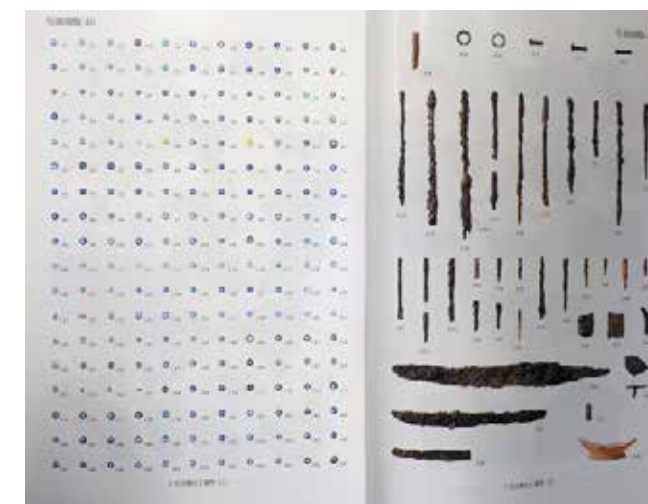
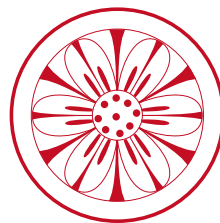


写真3 見つかった副葬品

牛田川除地区発掘ニュース 4月号 通算57号
令和5年3月31日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内） TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

5月号

通算 58 号

川除屋敷裏遺跡の概要 - 寺院と集落 -

群馬県営土地改良事業に伴い、平成30～令和3年度の4年間に渡って、川除屋敷裏遺跡の発掘調査を行いました。今年度が最終年度となり、川除屋敷裏遺跡から見つかった牛田廃寺跡と古代集落部分の報告書を作成します。

牛田・川除地区は、神流川左岸の低地に位置し、給食センターや防災公園がある藤岡台地とは、比高差が10m程度も存在します。牛田地区では、平成30年の群馬 HANI-1 グランプリで1位に輝いた『笑う埴輪』が発見されていますが、発掘調査が始まるまではどんな遺跡があるかわからない謎の地域でした。

8世紀に建てられた牛田廃寺跡は、現在は水田となっている低地に眠っていました。藤岡市では初めてとなる古代寺院の発見です。牛田廃寺跡からは、寺院の基礎や基礎を飾る瓦積基壇、建築部材である大量の瓦や大形の鉄釘が見つかっており、1～3棟の建物があつたことがわかりました。



写真1 「笑う埴輪」(藤岡市牛田字下毛田 発見)
※藤岡歴史館で展示中

牛田廃寺跡は、単独で存在していたのではなく、周辺には同時期の住居跡が多数見つかっています。道路・水路を建設する部分だけしか発掘調査を行っていませんが、そこだけでも400軒以上の住居跡が見つかっており、発掘していない箇所には、その何倍もの住居跡があるはずです。

現在は水田が広がる牛田・川除地区には、牛田廃寺跡を中心として営まれた古代の大集落が存在していたことがわかってきています。集落は、藤岡市内の遺跡の中でも屈指の規模であり、たくさんの人々が生活をしていました。その中には、牛田廃寺跡の僧や関係者が居たに違いありません。



写真2 牛田廃寺跡から見つかった沢山の瓦

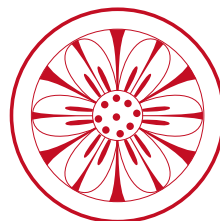


写真3 集落の発掘風景



写真4 住居から見つかった日常の土器

牛田川除地区発掘ニュース 5月号 通算 58 号
令和5年4月30日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内) TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

6月号

通算 59 号

笑う埴輪のなぞ - 藤岡市牛田発見の人物埴輪 -

藤岡市牛田^{しもだ}字下毛田で発見された「笑う埴輪」は、平成9年（1997）の道路拡幅工事で偶然発見されました。出土地点には現在看板があり、すぐ近くでは、牛田廃寺跡が見つかっています。笑う埴輪は発掘調査で見つかったものではないので、どのような状態で出土し、どんな性格だったのかはわかりません。令和元年には、看板の後ろ（写真1）を発掘しましたが、埴輪や古墳は全く見つからず、さらに謎が深まりました。

「笑う埴輪」最大の特徴は、名前の通り、目を細めて愉快そうに笑っているその表情です。普通、人物埴輪は写真2-2・3のように無表情が普通で、「笑う埴輪」のように表情を持つ埴輪は



写真1 「笑う埴輪」出土地点
(藤岡市牛田字下毛田)



写真2 埴輪の表情の比較

- 1: 笑う埴輪（藤岡市牛田） 2: 髷を結った巫女（藤岡市神田・三本木古墳群）
3: 頭巾を被った男性（藤岡市神田・三本木古墳群）

珍しいといえます。

なぜ「笑って」いるのか、その理由を知ることは難しいですが、埼玉県本庄市の「笑う埴輪」がヒントになるかもしれません。

写真3-1は盾持ち人という埴輪で、古墳を外敵から守る盾を持った人を表現しており、古墳の入口付近で出土しています。また写真3-2は農夫を表現した埴輪ですが、笑っている口元には小石で歯を表現し歯を剥き出しにして笑っており、誰かを威嚇しているようにも見えます。

古墳時代の「笑う」という行為には、外敵や邪気を防ぐ力があると信じられていたのではないかと、という考えがあり、本庄市の「笑う埴輪」は笑って敵を威嚇しているのかもしれない。

一方、藤岡市の「笑う埴輪」は、盾を持たず歯もなく、朗らかに笑っているように見えます。埴輪の表情の意味は、完全に解明されたわけではなく、いくつかの意味があったのかもしれない。

藤岡市の「笑う埴輪」はどんな「笑い」に見えますか？



写真3 埼玉県本庄市出土の「笑う埴輪」

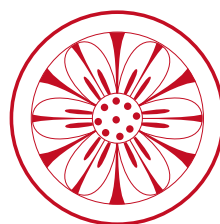
牛田川除地区発掘ニュース 6月号 通算 59 号

令和5年5月31日 発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾

藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内） TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

7月号

通算 60号

笑う埴輪のなぞ 2 - 頭部の装飾 -

牛田廃寺跡のすぐそば、藤岡市牛田字下毛田で発見された「笑う埴輪」は、平成9年（1997）に偶然見つかりました。笑う埴輪は発掘調査で見つかったものではなく、出土状況にはわからないことが多いですが、前号では、笑う埴輪の表情について見ていきました。今月号では、笑う埴輪とはどんな人物埴輪だったのかを推測してみましょう。



写真1 「笑う埴輪」出土地点
(藤岡市牛田字下毛田)

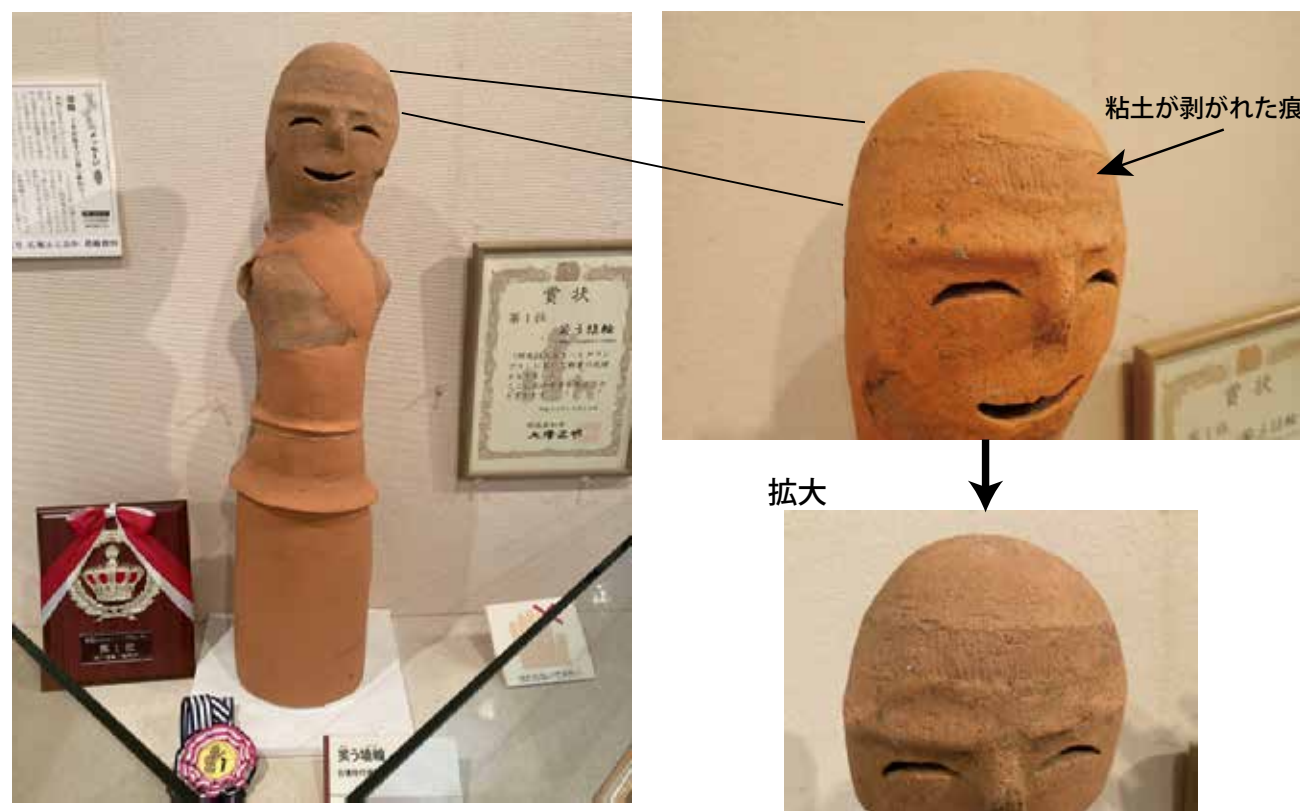


写真2 笑う埴輪の特徴

現在の笑う埴輪の頭部は、坊主頭で何もなかったように見えますが、じっくり観察すると笑う埴輪の額に、^{ひたい}带状に粘土が剥がれた痕があることに気づきます（写真2）。今は取れてしまっていますが、本来はここに何らかの装飾があったのでしょう。

額部分に装飾がある人物埴輪を探してみると、^{ぼうし}帽子をかぶった埴輪があることに気づきます（写真3）。写真3は帽子のつばが頭部を全周する今の麦わら帽子やシルクハットのような形の帽子を被った人物埴輪（男性）です。古墳時代の帽子は、あの世へ行く時の死者の被り物としての役割もあつたらしく、^{ぼうし がた はにわ}帽子形埴輪（図1）という帽子だけを表現した埴輪も藤岡市で見つかっています。

おそらく笑う埴輪も、本来は写真3のような帽子を被った埴輪であつたのでしょう。埴輪を細かく観察して、比較していくと様々なことがわかってきます。

笑う埴輪は、藤岡歴史館常設展で展示中です。是非ご自分の目で観察してみてください。



写真3 帽子を被った人物埴輪
(伝群馬県出土) 奈良国立博物館蔵

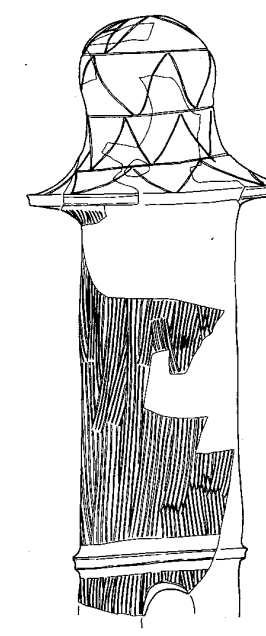


図1 帽子形埴輪
藤岡市平井地区1号古墳出土

牛田川除地区発掘ニュース 7月号 通算 60号
令和5年6月30日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内) TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

8月号

通算61号

瓦の文様を写しとる - 拓本の方法 -

発掘調査を行うと私たちの祖先が使った沢山の道具が出土します。平成30年度に調査を行った牛田廃寺跡では、1200年前の寺院の屋根に葺かれた瓦が大量に出土しました。その量は、破片数2300点、重さ400kgに及びます。

現在、報告書の作成を行っていますが、その中に「拓本」という作業があります。

①拓本は画仙紙という専用の紙を、②土器



写真1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)



①画仙紙を対象物の大きさに切る



②水で画仙紙を貼り付ける



③画仙紙がやや乾いたらタンポに墨をつけて叩く



④画仙紙を剥がして出来上がり

写真2 拓本の作業手順(瓦)

や瓦など表面を写し取りたいものに水で貼り付け、③墨を含んだ丸いタンポという道具で表面を打ち、④表面の文様を写しとります(写真2-①~④)。これは拓本の「湿拓」という方法です。

魚拓の手法と似ていますが、魚拓は対象物に直接墨を塗って紙を貼り付ける「乾拓」という方法です。この方法を土器で行うと表面が真っ黒になって墨が取れなくなります。そのため、文化財では必ず紙を水で貼って、その上から墨をのせる「湿拓」という方法を使います。

拓本は非常にアナログな手法ですが、墨の陰影で文様が非常にわかりやすく表現でき、また材料が安価で方法も単純なため、誰でもできるという利点があります。今でも文化財関係では広く採用されている方法です。

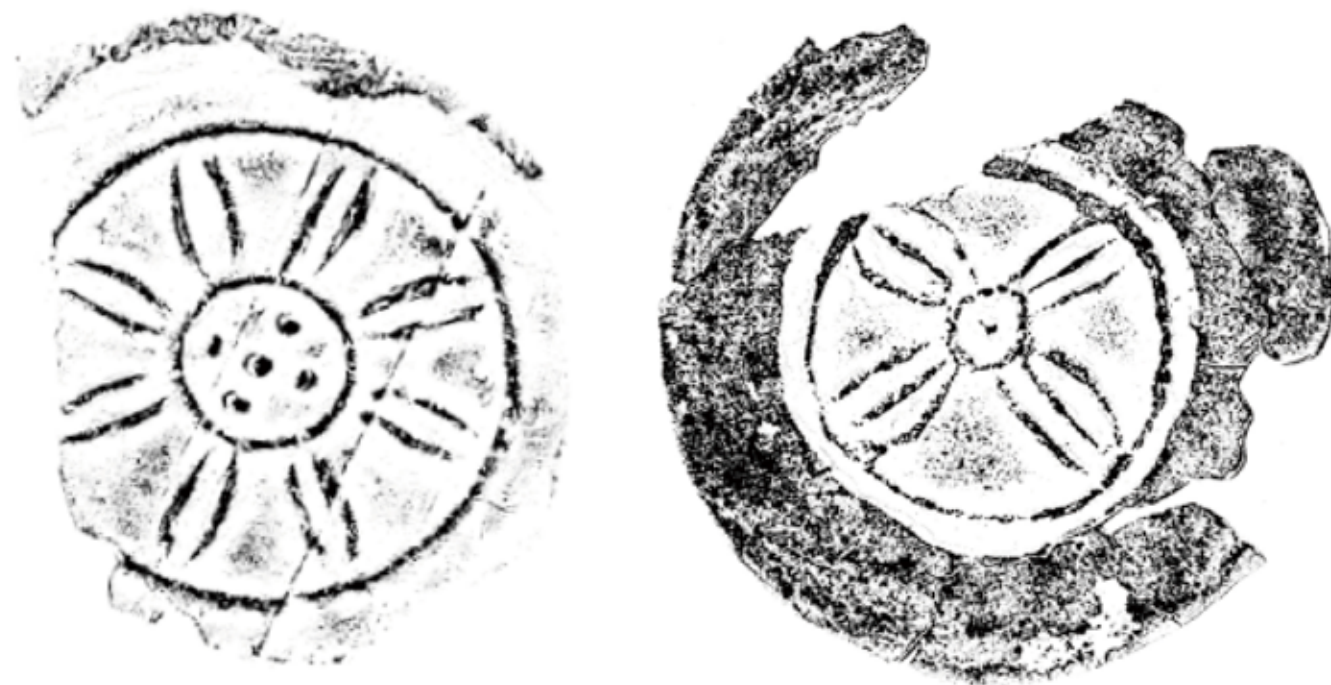


写真3 軒丸瓦 瓦当部(蓮花の文様)の拓本
牛田廃寺跡出土

牛田川除地区発掘ニュース 8月号 通算61号
令和5年7月31日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石1291-1(藤岡歴史館内) TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

9月号

通算 62 号

い こう じ いた び 医光寺の板碑

牛田廃寺跡から南に 800m 程の天台宗医光寺には、藤岡市指定重要文化財の「医光寺板碑」があります（図 1）。

板碑とは、石で造られた卒塔婆（註 1）のことで、13～17 世紀頃まで盛んに作られました。薄い板状の石を使用することから「板碑」と呼ばれ、三波川結晶片岩の一種である緑泥片岩（りよくでいへんがん）を使用して作られます。表面には梵字（ぼんじ）（サンスクリット語）や仏像が彫刻され、年号や氏名が刻まれることもあります。

医光寺板碑は、鎌倉時代末期の延慶 3 年（1310）に作られました。高さ 253cm、幅 52cm、厚さ 5.5cm で藤岡市内に現存する板碑の中では最大のもので、表面には阿弥陀如来（あみだ にょらい）や観世音菩薩を表す梵字（かんぜおん ぼさつ）が刻まれています。

状態が良い貴重な板碑ですが、もともと医光寺にあったものではありません。医光寺板碑を紹介した、「多野郡牛田の板碑について」（註 2）という論文には、「明治 28 年頃に対岸なる阿保領（註 3）用水路改修の時、神流川の川底より掘出してこの医光寺の境内に建て置かれしものなり」と書かれています。



写真 1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)



写真 2 医光寺板碑
(市指定重要文化財)

なぜ神流川の川底に埋まっていたのかはわかりませんが、神流川上流の浄法寺には、浄土院浄法寺（じょうどいんじょうほうじ）という寺院があり、ここから流れ着いたのでは、と言われています。浄土院浄法寺は寺名が地名にもなっており、奈良時代（8 世紀頃）に創建され、当時は「緑野寺」（みどりの じ）と呼ばれていました。群馬県内で現在も活動している寺院の中で最も古く、由緒ある寺院です。

浄土院浄法寺（緑野寺）は、中世に行われた山内上杉氏と後北条氏の戦いの中で、上杉氏についたため天文 21 年（1552）に焼失してしまいました。現在では当時を偲ぶ建物などは残っていませんが、この戦乱の最中に浄土院浄法寺にあった板碑が持ち去られ、捨てられ、牛田・川除付近に流れ着いたのかもしれません。

モノには、それぞれの歴史があり、そこにある理由があります。身近な遺跡や遺物について調べてみると意外な事実がわかるかもしれません。

註

- ※1 供養のために建てられる細長い板。今の墓にも木製の卒塔婆が見られる。
- ※2 金鑽武城 1930「多野郡牛田の板碑について」『上毛及び上毛人』第 160 号
- ※3 埼玉県神川町



図 1 医光寺と浄土院浄法寺の位置関係

牛田川除地区発掘ニュース 9月号 通算 62 号
令和 5 年 8 月 31 日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内） TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

10月号

通算 63 号

つばきもり たかやまのみくりや 椿杜神社と高山御厨

笑う埴輪や牛田廃寺より後の時代、中世の藤岡には高山御厨がありました。

中世になると地元の有力者が土地を開発し、それを貴族や神社・寺院に寄進する荘園が発達します。御厨は荘園の一種で、神に備える供物を調達するために神社などが持っていた領有地のことです。「厨」は台所を意味し、神への敬意を表すため「御」を付けて「御厨」と呼ばれました。

高山御厨は伊勢神宮の御厨です。1108年（天仁元年）、浅間山の大噴火によって藤岡地域は大きな被害を受けました。復興を進めさらなる開墾を行うため有力な寺社である伊勢神宮に1131年（天承元年）に土地を寄進し、1142年（永治二年）に高山御厨が成立しました。高山御厨では国への税金を免除される代わりに毎年、伊勢神宮内宮・外宮へ白布10反、雑用料としてその他の布10反を納めていました。



写真1 椿杜神社・牛田廃寺跡・笑う埴輪の位置関係



写真1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)



写真2 椿杜神社 社殿

高山御厨は、伊勢神宮 内宮・外宮に奉仕していました。日本の最高位である伊勢神宮は1つの神社ではなく、内宮と外宮を中心とした125社の総称です。内宮には日本人の総氏神である「天照大御神」、外宮には天照大御神の食事を司り、衣食住など様々な産業の守り神である「豊受大御神」が祀られています。



写真3 神明宮 社殿(右)と神楽殿(左)

牛田廃寺の西に位置する椿杜神社は、元々、神田字神明にあり「神明社」と呼ばれていました。この神社は、高山御厨と深い関係があったと言われています。椿杜神社には、伊勢神宮 外宮と同じ「豊受大御神」が祭神として祀られています。さらに藤岡市中栗須にある神明宮の祭神は、伊勢神宮 内宮と同じ「天照大御神」です。伊勢神宮と同じ神を祀る椿杜神社と神明宮が、高山御厨が祀った神社であり、高山御厨がこの一帯に存在した証しと考えられてきました。さらに以前には、白酒・黒酒（注1）を椿杜神社と神明宮に供え、祭典を行っていたと言われ、2社には深い関係性がありました。

中世の藤岡は、神のための供物を奉仕する神聖な土地でした。高山御厨が成立して900年以上経った現在でも、藤岡には伊勢神宮 内宮・外宮と同じ祭神を祀った神社が残り、当時の信仰の名残が脈々と受け継がれています。

注1：白酒・黒酒

新嘗祭（稲の収穫を祝い、豊穰を祈る式典。11月23日（勤労感謝の日）に行われる）などで供えられる神酒のこと。新米を使って醸造した白酒と黒酒が供される。白酒は白濁した酒。黒酒は植物を蒸し焼きにして炭化させ、粉末にした灰を白酒に加えた黒灰色の酒。日本の食の基本は米であり、米を原料とするものの中で、最も手間暇をかけて作られるのが清酒である。清酒は米を原料に造られた最も尊いものとして、神棚の中央に供えられる。

牛田川除地区発掘ニュース 10月号 通算 63 号
令和5年9月30日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内） TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

11月号

通算 64号

藤岡に残る高山御厨の名残

中世の藤岡には、伊勢神宮の領有地である高山御厨がありました。10月号では、牛田廃寺西側の椿杜神社と中栗須神明宮には、伊勢神宮と同じ祭神である「天照大御神」と「豊受大御神」が祀られ、高山御厨と非常に関係が深いことを紹介しました。藤岡市では他にも、矢場の御巡部神社がその名前から御厨に



写真1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)

していると言われています。これらの3つの神社がある場所の地名を調べてみると、全て「神明」という小字です。「神明」には、「神」の他に「天照大御神」という意味があり、地名にも高山御厨の影響が色濃く残っていることがわかりました(註)。これ以外にも藤岡には、「神明」・「伊勢」といった伊勢神宮に

関係する地名が沢山あります(裏面参照)。さらに大字にも、高山御厨に由来する地名・人名・言い伝えが数多くあり、これらが残る地域が高山御厨の範囲であったのかもしれませんが。現在でも身近に高山御厨の名残があり、藤岡にとって非常に大きな存在であったのでしょう。



写真1 神明宮 社殿(右)と神楽殿(左)

写真2 椿杜神社 社殿

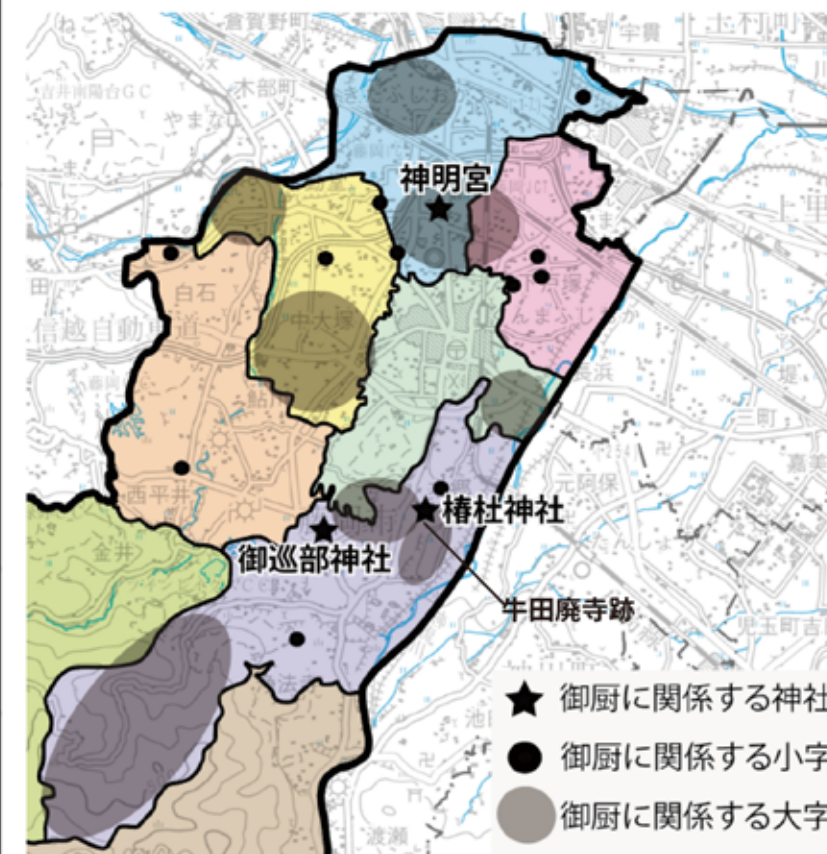
写真3 御巡部神社 社殿

藤岡市内で高山御厨に関する大字と由来

大字	由来・伝説など
上栗須・中栗須・下栗須	厨巢=厨の所在地の意か。
中	「高山御厨中村郷」応永25年(1418年)文書に記述あり。
小林	高山御厨地頭 小林氏。
上大塚・中大塚・下大塚	「高山御厨北方内大塚」徳治3年(1308)文書に記述あり。 「高山庄南神田並下大塚」文和2年(1353)文書に記述あり。
高山	高山御厨地頭 高山氏の城・館があった。
神田	神に備えた米を作った場所。「高山庄南神田」文和2年(1353)
牛田	牛を使って神田を耕した?発掘調査で実際に牛の骨が見つかった。
三ツ木	高山御厨の貢物を扱う役所があった。

藤岡市内で「神明」「伊勢」等を含む小字と地番

神流地区	
下戸塚	字 神明 229~277 字 伊勢塚 45~89
下栗須	字 伊勢塚 221~255
小野地区	
立石神田	字 伊勢島 232~299 字 伊勢宮下 300~354
上栗須	字 神田 412~455
中栗須	字 神明東 545~609 字 神明 610~616 字 神明西 617~685 字 神明上 686~703
美土里地区	
本動堂	字 御伊勢 139~190
篠塚	字 伊勢塚 1~11
平井地区	
西平井	字 神明1522~1549
三ツ木	字 神明前355~503
美九里地区	
本郷	字 神明 2014~2066
牛田	字 神明下 1~25 字 伊勢原 830~913
神田	字 神明 1~87
矢場	字 神明135~187
保美	字 神明706~764



御厨に関する神社・地名の位置

註

神明=①神、神祇(天の神と地の神、神々のこと)
②祭神としての天照大御神③人の心、精神。

神明社=中世以降、伊勢神宮の神霊を奉祀した神社。

『広辞苑 第2版』より

牛田川除地区発掘ニュース 11月号 通算 64号
令和5年10月31日 発行
発行: 藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当: 文挾
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内) TEL: 0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

12月号

通算 65 号

仏教布教の痕跡

- 遺跡から見つかった仏具 -

うした はいじ あと

牛田廃寺跡は牛田・川除地区で発見された8世紀前半（奈良時代）創建の寺院跡です。現在は廃寺となり、遺跡となって地中に埋もれ、寺を示すものは確認できませんが、当時は非常に人目を引く荘厳な建物が建っていたはずです。

仏教において最も重要とされる要素に「三宝」があります。「三宝」とは「仏・法・僧」のことで、「仏」は悟りを開いた人や仏像、「法」は仏の教えが書かれた経典、「僧」は法を信仰し実践する者のことです。特に「僧」は牛田廃寺周辺で見つかった集落で暮らし、様々な活動をしていたはずでした。

今月号では、遺跡から見つかり僧侶が使っていたと思われる仏具について紹介します（図1）。

牛田廃寺周辺に広がる川除屋敷裏遺跡では、400軒以上の住居が見つかり、藤岡市を代表する奈良時代の大集落であることがわかりました。この住居跡内からは、「鉄鉢形土器」あるいは「仏鉢形土器」と言われる土器が見つかり



写真1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)



写真1 托鉢の様子（栃木県教委 1999）

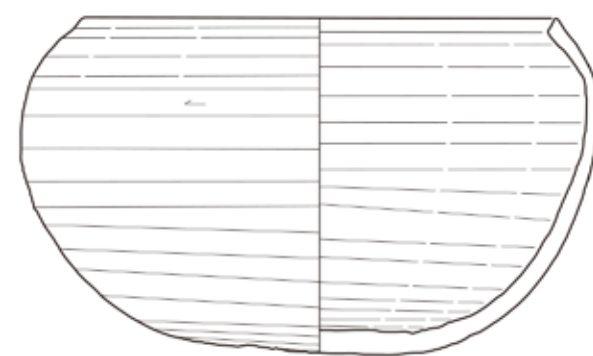
ます。これらは普通の集落では出土しない土器で、僧侶が托鉢（写真1）や食器、仏への供養具として使っていた道具と考えられています。

「鉄鉢形土器」は名称からもわかるとおり、本来は写真2のように鉄製の鉢ですが、それを真似て作った土器です。器の口の部分が内湾したずんぐりした形をしています。

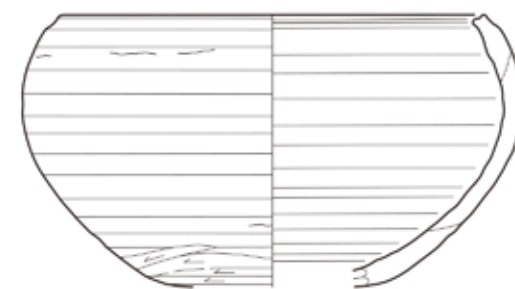
牛田廃寺の僧侶は、仏鉢形土器を使い、仏教の布教を行っていたでしょう。遺跡からは当時の人々が使っていた「モノ」しか出土しません。そのため「鉄鉢形土器」などの仏具が出土することが、僧侶の存在や牛田川除地区に仏教の教えが広まっていた重要な証拠となります。



写真2 鉄鉢（法隆寺 蔵）



2号住居跡



272号住居跡

図1 川除屋敷裏遺跡出土の鉄鉢形土器

牛田川除地区発掘ニュース 12月号 通算 65 号

令和5年11月30日 発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾

藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内） TEL:0274-23-5997



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

1月号

通算 66 号

牛田廃寺と弘仁地震

牛田廃寺の発掘調査では、合計 566.78kg にも及ぶ大量の瓦が見つかりました。牛田廃寺は全て調査していませんので、実際には、この何倍もの瓦が使われていたはずです。

屋根材としての瓦の特徴は、部分的な補修ができることです。一部分が割れたり欠けたりした場合、その部分の瓦だけ取り替え修理することができます。後から取り替えた瓦を「補修瓦」と呼び、創建当初に葺かれた瓦を「創建瓦」と呼びます。牛田廃寺の瓦にも創建瓦と補修瓦がありますが、その比率がかなり変わっていました。（図 1）瓦の個体数を推定する方法はいくつかありますが、瓦に角が必ず 4 つあることを利用して、個体数＝総角数 ÷ 4 とする方法が一般的です。

数えた結果、創建瓦と補修瓦がほぼ同じ数あったことがわかり



写真 1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)
ほしゅうがわら

ました。さらに補修瓦の種類は 1 種類だけが突出していて、ごく短期間に大規模な瓦の葺き替えが行われたようです。

牛田廃寺は 8 世紀前半から 9 世紀後半の約 100 年程が活動期間であったことがわかっています。その期間内に瓦を葺き替える必要が生じた事件を探してみると、818 年（弘仁 9 年）に起こった「弘仁地震」が挙げられます。

弘仁地震は群馬県で起こった大地震で、群馬・埼玉北部を中心に大きな被害があったと言われています。同時期の上野国分寺や山王廃寺といった寺院でも、この時期の補修瓦が大量に見つかっており、群馬県域の古代寺院は大きな被害を受け、復旧に追われていたことが瓦の比率から推測できます。

牛田廃寺は屋根瓦に大きな被害がありましたが、補修瓦で復旧を行っていました。地域の人々にとって非常に大切な寺院だったことが想像できます。

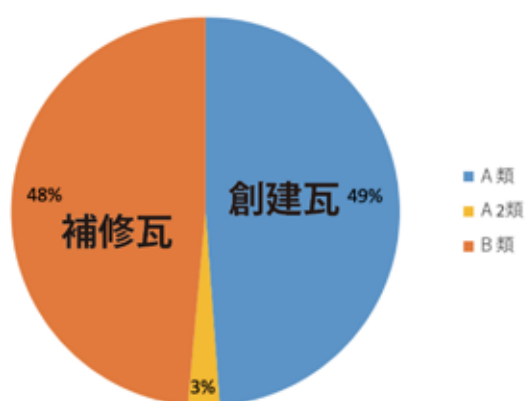


写真 1 牛田廃寺の屋根景観の復元

出土した瓦を接合し、組み合わせて牛田廃寺の屋根を復元しました。明るい色調の瓦が多くカラフルな色合いで、現在の屋根瓦とは大きく違っています。

牛田川除地区発掘ニュース 1月号 通算 66 号
令和 5 年 12 月 31 日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内） TEL:0274-23-5997

平瓦の個体数比率



丸瓦の個体数比率

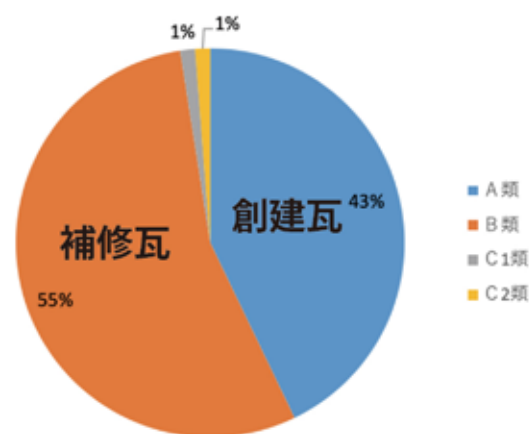


図 1 牛田廃寺の瓦の比率



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

2月号

通算 67 号

川除屋敷裏遺跡の成立

牛田古墳群や牛田廃寺跡を含む川除屋敷裏遺跡では 400 軒以上の住居が発見されており、古代における藤岡市を代表する大集落であったことが、発掘調査の結果わかりました。住居は、5 世紀後半から 11 世紀までの約 500 年の間に作られたものですが、時期によって偏りがあります。

住居が増加し始めるのは 6 世紀からですが、牛田廃寺創建直前の 7 世紀後半から激増します。この頃に鉄鉢形土器てっぱちがたどきといった僧侶が使う道具も出土しはじめます。8・9 世紀にも住居数



写真 1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)

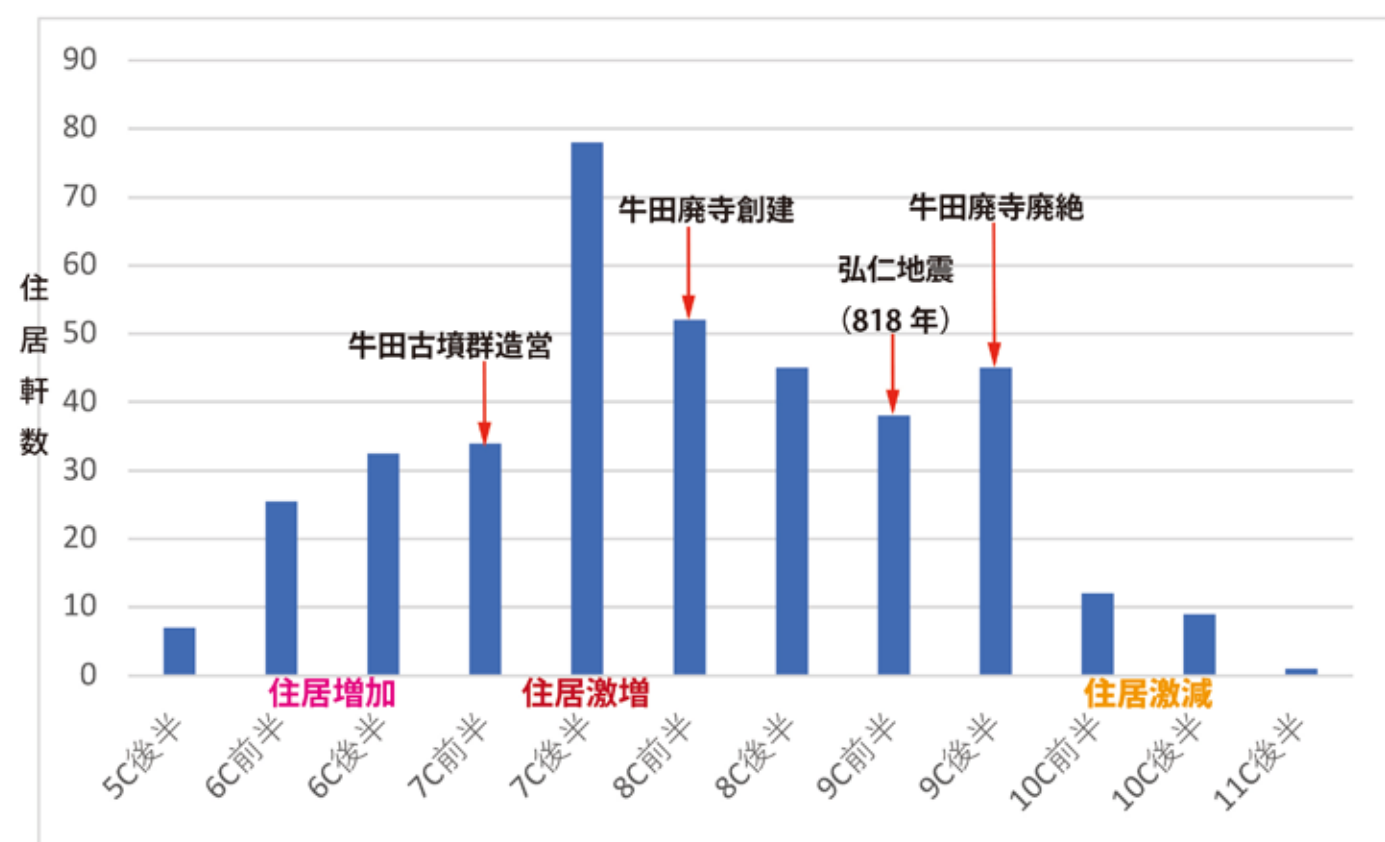


図 1 川除屋敷裏遺跡の時期別住居軒数グラフ

は高水準で推移しますが、いったん 9 世紀前半で減少しており、こうにん弘仁地震 (818 年) の影響があるかもしれません。9 世紀後半まで多くの住居が造られ人々の居住が見られますが、廃絶後の 10 世紀には激減しています。

川除屋敷裏遺跡は、牛田古墳群や牛田廃寺と非常に密接に関係する遺跡です。特に牛田廃寺と非常に結びつきが強いといえます。

このことから当時の豪族が、新しい耕地開発の拠点・シンボルとして牛田廃寺を造営したと考えられています。川除屋敷裏遺跡は、それに伴って作られ、牛田廃寺とともに歩んだ集落と言えるでしょう。

平成 30 年度から 6 年間続いた牛田川除地区の発掘調査事業も、今年度に成果報告書を刊行し事業が完了となります。それに合わせ地域の皆様に読んでいただいた発掘ニュースも、来月号で終了の予定です。

最後までどうぞよろしく
お願い致します。

牛田川除地区発掘ニュース 2月号 通算 67 号
令和 6 年 1 月 31 日 発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾
藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内) TEL:0274-23-5997



図 2 川除屋敷裏遺跡の住居の分布

住居は事業地南に集中します。牛田廃寺や牛田古墳群の周りにはあまり造られず、住まいに関する何らかの規制があったと考えられます。



令和5年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

終刊号（3月号）

通算 68 号

牛田廃寺と川除屋敷裏遺跡

平成 30 年度に発見された牛田廃寺は、藤岡市で初めて見つかった古代寺院跡であり、藤岡市の奈良・平安時代を知る上で非常に重要な遺跡です。

寺院には通常、周囲に溝や塀がめぐり、寺域と外界を分けることが一般的ですが、牛田廃寺にはそのような施設はなく、集落と溶け込むように存在していました。

寺の規模も小さく、集落の中にあるお堂といったイメージが最も近いと思います（図 1）。牛田廃寺は、当時の人々にとって非常に身近な存在だったのではないのでしょうか。周辺には、牛田廃寺創建と前後して、大規模で計画的な集落（川除屋敷裏遺跡）



写真 1 牛田廃寺跡 発見地点
(藤岡市牛田字下毛田)



図 1 牛田廃寺のイメージ図

が作られます。奈良平安時代では、藤岡市でも最大級の集落で、たくさんの人々が住んでいたことが調査の結果、確認されています。

川除屋敷裏遺跡の住居跡からは、僧侶が使っていた仏具や仏教に**はいつ**関連がある遺物が見つかっており、牛田廃寺の僧侶やその関係者なども住んでいました。川除屋敷裏遺跡は牛田廃寺の**はいつ**廃絶と時を同じくして衰退していきます。川除屋敷裏遺跡は、牛田廃寺と共に歩んだムラといってよいでしょう。

牛田・川除地区で見つかった一連の遺跡は、藤岡市の歴史の空白を埋める非常に重要な発見でした。今後、調査の成果を元に様々なことがわかってくるに違いありません。

今号で「牛田・川除地区発掘ニュース」は終刊となります。

ご愛読ありがとうございました。



牛田川除地区発掘ニュース 終刊号（3月号）通算 68 号

令和 6 年 2 月 29 日 発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾

藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内） TEL:0274-23-5997